

## はじめに

令和元年8月から9月にかけて実施した「第48回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。例年無作為に抽出した20歳以上の3千人の区民を対象にご協力をお願いしており、今回は1,590人（回収率53.0%）の方々からご回答いただきました。大変お忙しい中、誠にありがとうございました。

まちの変化に対して、また区が実施している様々な施策に対して、区民の皆様がどのように感じ、その感じ方が以前と比べてどのように変化しているのか、いないのかなど、皆様方の「思い」のありかを知る上で、本調査は非常に重要な役割を果たしています。足立区ではその「思い」こそ、未来の当区をより良い方向へと導く羅針盤ととらえ、大切にしているからです。

同じ質問に対しても、地域別・年齢別・居住年別、さらに今回の調査から加えたエリアデザイン別に微妙に回答の傾向が異なる場合も見受けられます。区民の価値観やニーズがこれまでにないほど複雑化・多様化している証しともいえます。限られた職員と財源を使って、何を優先することが区民の皆様の満足感や誇りにつながるのか、調査結果を分析し、今後の事業や予算の組み立てに最大限生かしてまいります。

皆様の「思い」を受け止めるために、本調査ばかりでなくメールや広聴ハガキによる「区民の声」をはじめ、様々なツールを用意しています。是非お声をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

令和2年2月

足立区長 近藤 やよい



# 目 次

<b>第 1 章 調査の概要</b> .....	1
1 調査の目的 .....	3
2 調査の内容 .....	3
3 調査の設計 .....	3
4 調査地域 .....	4
5 調査方法 .....	5
6 回収結果 .....	5
7 報告書の見方 .....	7
8 標本構成 .....	10
<b>第 2 章 調査結果の要約</b> .....	15
1 定住性 .....	17
2 大震災などの災害への備え .....	18
3 洪水対策 .....	20
4 区の情報発信のあり方 .....	21
5 健康 .....	22
6 スポーツ .....	24
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動 .....	26
8 環境・地域活動 .....	28
9 「孤立ゼロプロジェクト」など .....	29
10 協働・協創 .....	30
11 区の取り組み .....	31
<b>第 3 章 調査結果の分析</b> .....	39
1 定住性 .....	41
(1) 居住地域の評価 .....	43
(2) 居住地域評価の経年比較 .....	58
(3) 地域の暮らしやすさ .....	65
(4) 特に暮らしにくいと感ずること .....	71
(5) 定住意向 .....	75
2 大震災などの災害への備え .....	83
(1) 備蓄や防災用具などの用意 .....	85
(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 .....	89
(3) 備蓄量 .....	94
(4) 災害発生時の水や食料の確保 .....	100
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策 .....	103
(6) 対策をしていない理由 .....	106

(7) 地域の避難場所の認知	109
(8) 避難場所の認知経路	111
(9) 大規模災害時の避難生活場所	113
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	115
3 洪水対策	121
(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	123
(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	126
(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先	133
4 区の情報発信のあり方	137
(1) 区の情報の入手手段	139
(2) 必要とする区の情報	144
(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況	148
(4) 区の情報得られない理由	150
(5) 区の情報得られない理由の詳細	152
5 健康	153
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	155
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	157
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	160
(4) 1日野菜350g以上の摂取	162
(5) 体調や習慣	164
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	169
(7) 自身の健康状態について	172
(8) がん検診制度の感想	175
(9) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	177
6 スポーツ	179
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況	181
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	183
(3) 運動・スポーツを行っている場所	186
(4) 障がい者スポーツへの意識・行動	188
(5) スポーツボランティア活動への意識・行動	190
(6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること	192
(7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無	195
(8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動	197
(9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ	200
(10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	202
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	205
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	207
(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	211
(3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況	215

(4) 治安が改善していることの認知	219
(5) 居住地域の治安状況	222
(6) 区内の治安が良いと感じる点	226
(7) 区内の治安が悪いと感じる点	229
(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	233
(9) 駐車時の鍵かけ状況	237
8 環境・地域活動	243
(1) 環境のために心がけていること	245
(2) 「食品ロス」という言葉の認知	248
(3) 食品ロス削減のために心がけていること	250
(4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	252
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	259
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	261
(2) 「地域包括支援センター」の認知状況	264
(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	267
(4) 協力意向がある活動内容	270
(5) 「成年後見制度」の認知状況	272
10 協働・協創	275
(1) 「協創」の認知	277
(2) 協働・協創の実践	279
(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	280
11 区の取り組み	283
(1) 満足度と重要度	285
(2) 区政への区民意見の反映度	325
(3) 区に対する気持ち	328
(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	351
(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	355
(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	361
<b>第4章 使用した調査票</b>	<b>363</b>



# 第1章 調査の概要



## 1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

## 2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 協働・協創
- (11) 区の取り組み

## 3 調査の設計

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| (1) 調査地域     | 足立区全域               |
| (2) 調査対象     | 足立区在住の満20歳以上の個人     |
| (3) 標本数      | 3,000サンプル           |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間     | 令和元年8月1日(木)～9月6日(金) |
| (6) 調査機関     | (株) マーケティング・サービス    |

4 調査地域

図1 地域区分図

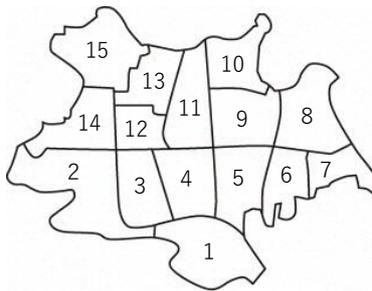


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地区町丁目名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

## 5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）  
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

## 6 回収結果

- (1) 標本数 3,000票  
 (2) 有効回収数 1,590票 有効回収率 53.0%  
 (3) 回収不能数 1,410票 回収不能率 47.0%

- (4) 地域別回収結果

表2 調査地域別回収結果

地域名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	580,526	100.0%	3,000票	1,590票	53.0%
第1地域	66,138	11.4	339	194	57.2
第2地域	41,419	7.1	215	113	52.6
第3地域	34,541	5.9	179	100	55.9
第4地域	49,860	8.6	258	121	46.9
第5地域	52,669	9.1	273	127	46.5
第6地域	37,806	6.5	196	104	53.1
第7地域	27,895	4.8	144	73	50.7
第8地域	46,874	8.1	243	139	57.2
第9地域	37,850	6.5	196	114	58.2
第10地域	27,448	4.7	143	65	45.5
第11地域	47,566	8.2	246	132	53.7
第12地域	24,264	4.2	126	69	54.8
第13地域	28,421	4.9	147	85	57.8
第14地域	31,436	5.4	163	91	55.8
第15地域	26,339	4.5	132	62	47.0

(20歳以上人口は令和元年7月1日現在)

※ 有効回収数のうち1票は地域不明

## 第1章 調査の概要

### (5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全体	3,000票	1,590票	53.0%
男性(計)	1,535	727	47.4
20代	235	69	29.4
30代	246	82	33.3
40代	301	120	39.9
50代	266	147	55.3
60代	198	121	61.1
70歳以上	289	188	65.1
女性(計)	1,465	856	58.4
20代	210	66	31.4
30代	189	118	62.4
40代	267	157	58.8
50代	222	149	67.1
60代	184	120	65.2
70歳以上	393	246	62.6
その他		1	
無回答		6	

(注) この表での『その他』は、「性」の回答において、令和元年度より選択肢が新設追加された「その他」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『無回答』は「性」の回答がなかったサンプルの数を掲載している。なお、令和元年度調査では、「性」を回答していても「年代」を回答していないサンプルはみられなかった。

## 7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載とする。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問4の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「当分は住み続けたい」と答えた人は、1,590人のうち43.0%であった。

回答者数が1,590人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.46%であるから、「当分は住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の45.5%から40.5%であると推定できる。

### 〈標本誤差算出式〉

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

<p>b = 標本誤差  N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口)  n = 比率算出の基数 (回答者数)  P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)</p>
--

第1章 調査の概要

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,590	± 1.51	± 2.01	± 2.30	± 2.46	± 2.51
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,590	± 1.50	± 2.01	± 2.30	± 2.46	± 2.51
男性 (計)	727	± 2.23	± 2.97	± 3.40	± 3.63	± 3.71
20 代	69	± 7.22	± 9.63	±11.03	±11.80	±12.04
30 代	82	± 6.63	± 8.84	±10.12	±10.82	±11.04
40 代	120	± 5.48	± 7.30	± 8.37	± 8.94	± 9.13
50 代	147	± 4.95	± 6.60	± 7.56	± 8.08	± 8.25
60 代	121	± 5.46	± 7.27	± 8.33	± 8.91	± 9.09
70歳以上	188	± 4.38	± 5.84	± 6.68	± 7.15	± 7.29
女性 (計)	856	± 2.05	± 2.73	± 3.13	± 3.35	± 3.42
20 代	66	± 7.39	± 9.85	±11.28	±12.06	±12.31
30 代	118	± 5.52	± 7.37	± 8.44	± 9.02	± 9.21
40 代	157	± 4.79	± 6.39	± 7.32	± 7.82	± 7.98
50 代	149	± 4.92	± 6.55	± 7.51	± 8.03	± 8.19
60 代	120	± 5.48	± 7.30	± 8.37	± 8.94	± 9.13
70歳以上	246	± 3.83	± 5.10	± 5.84	± 6.25	± 6.38

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

## (9) 分類した項目の定義

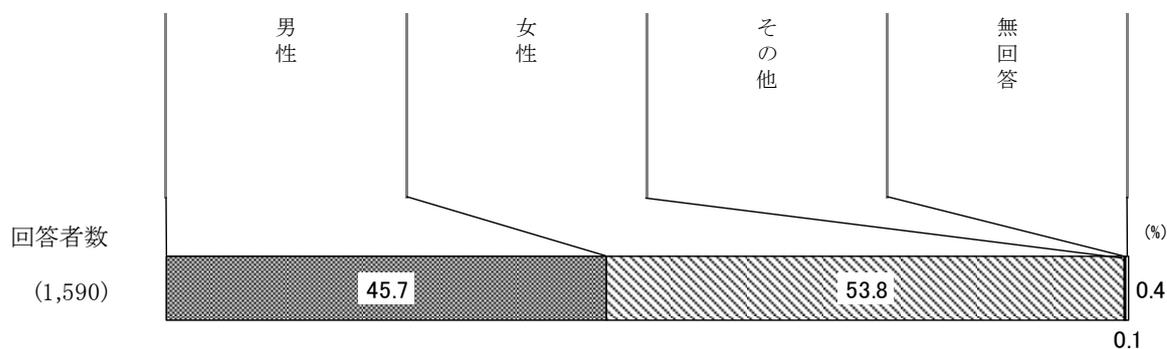
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域別……（15カテゴリ）
- ② 性別……（2カテゴリ） ※性別の「その他」は1サンプルだけ  
だったので表側から割愛
- ③ 性・年代別……（12カテゴリ）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリ）
  - ・ 独身期 40歳未満の独身者
  - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
  - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人  
（家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人  
（家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
  - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
  - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
  - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人  
（一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人  
（夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人  
（その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
  - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦  
（壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身  
（壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別①……（9カテゴリ）
- ⑥ エリアデザイン別②……（2カテゴリ）
- ⑦ 住居形態別……（8カテゴリ）
- ⑧ 職業別……（8カテゴリ）
- ⑨ 就労（就学）場所別……（6カテゴリ）
- ⑩ 居住年数別……（6カテゴリ）

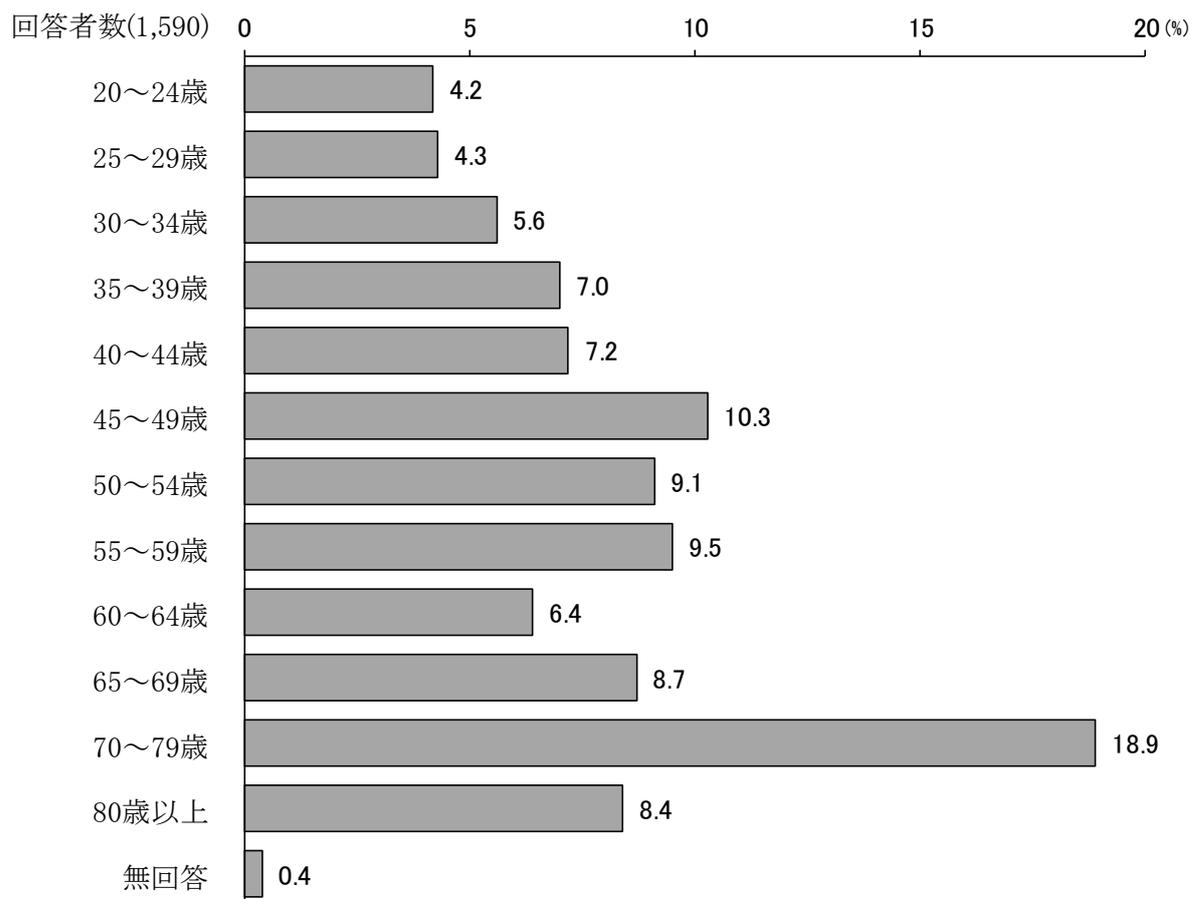
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

## 8 標本構成

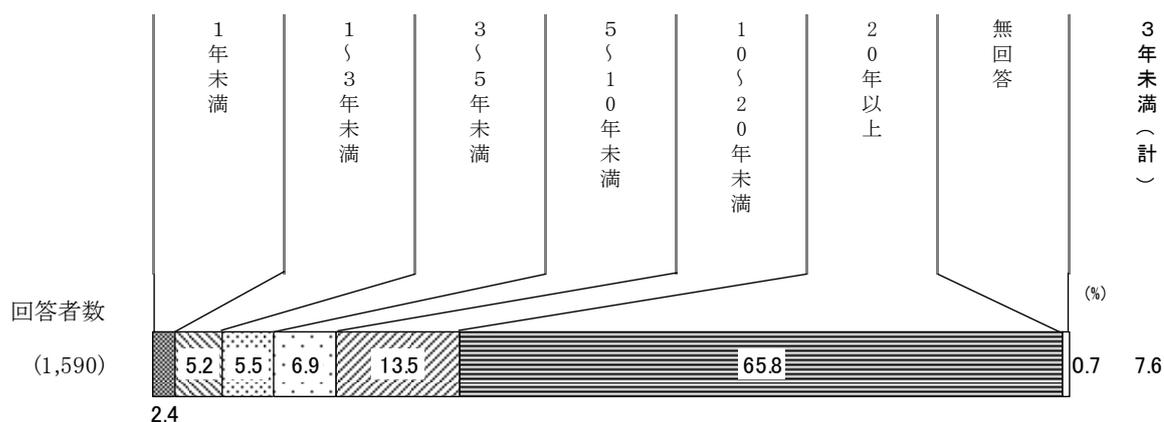
### F1 性別



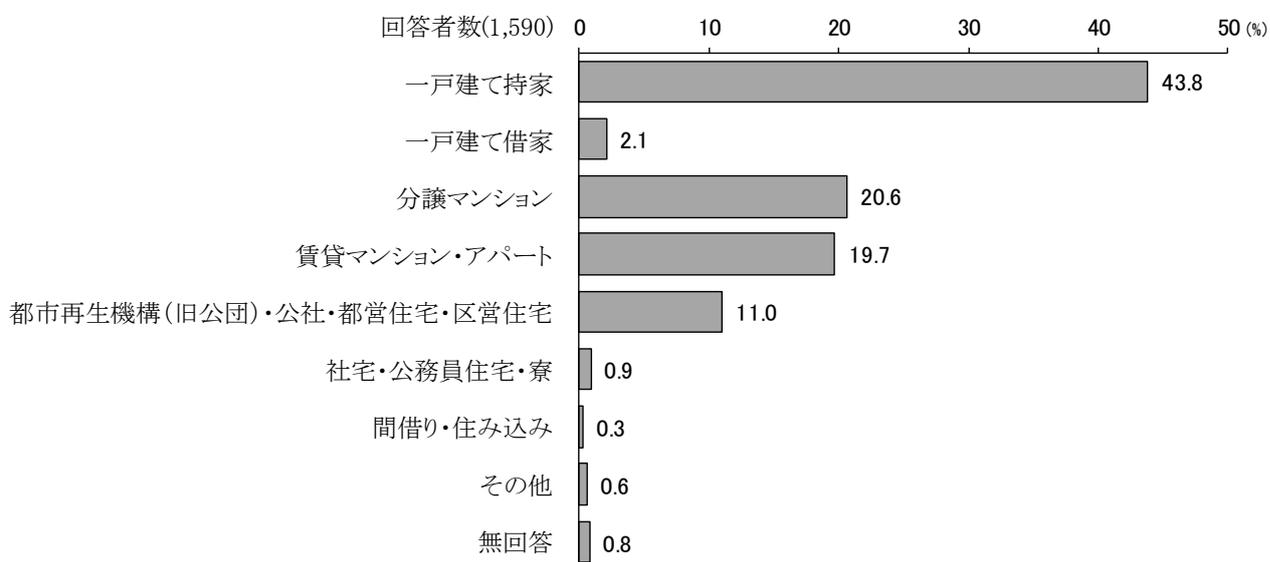
### F2 年齢



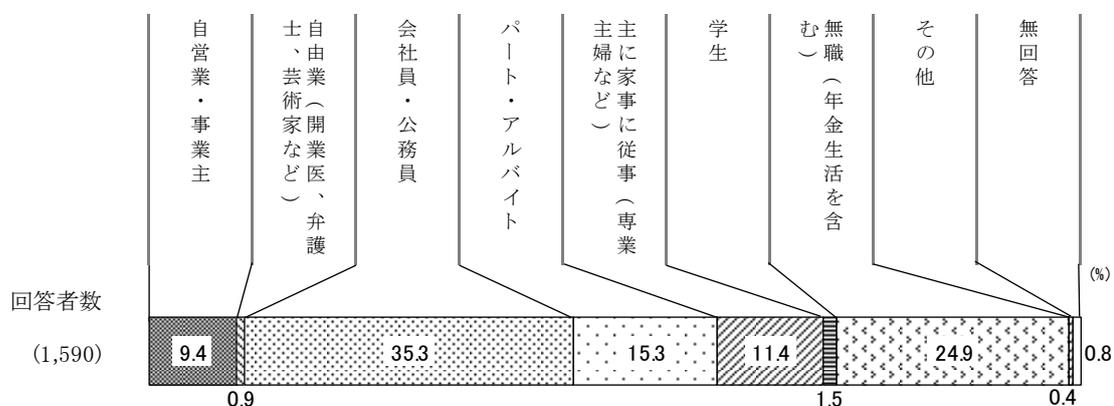
F 3 居住年数



F 4 住居形態

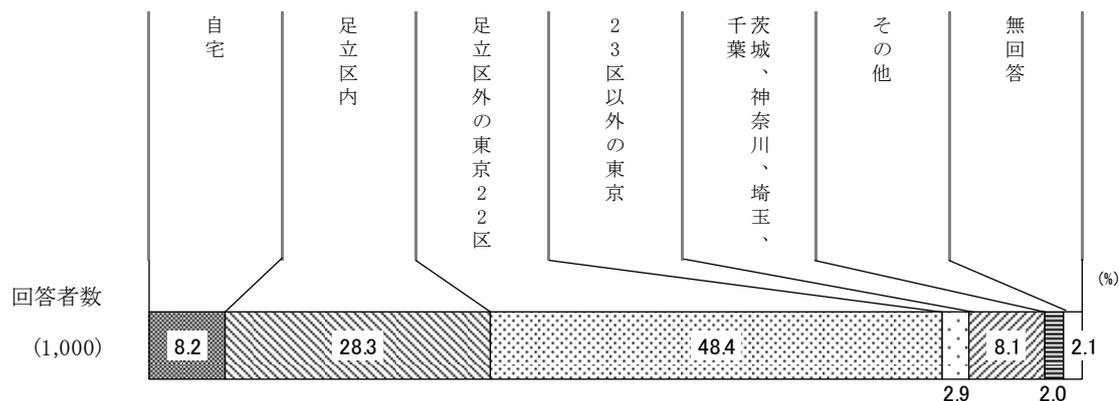


F 5 職業

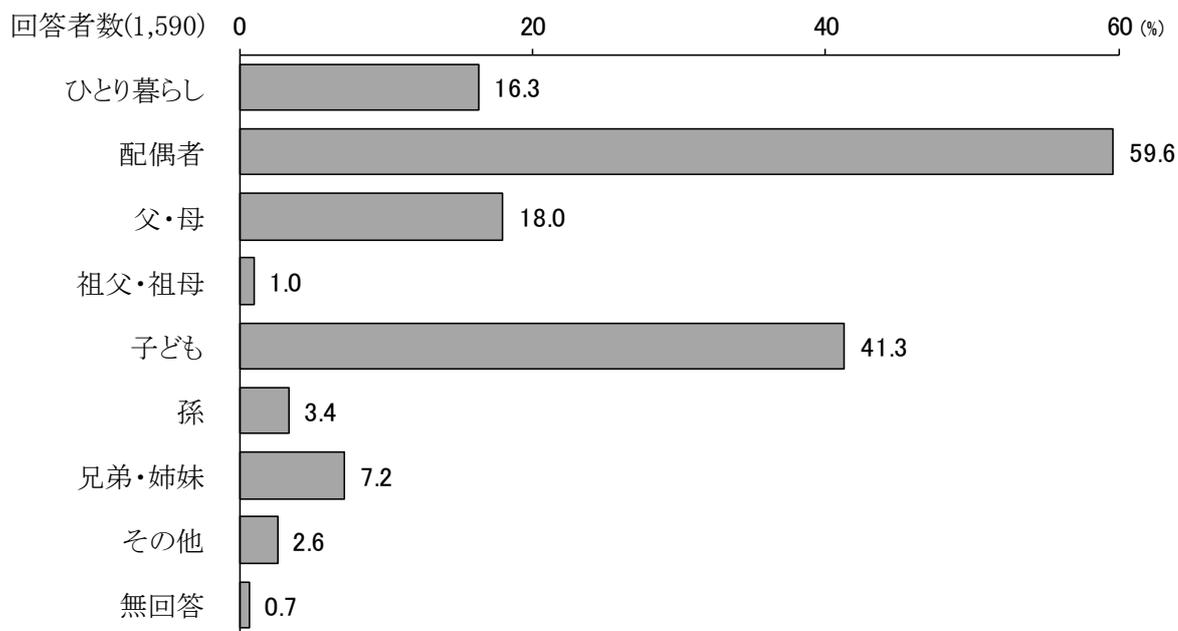


第1章 調査の概要

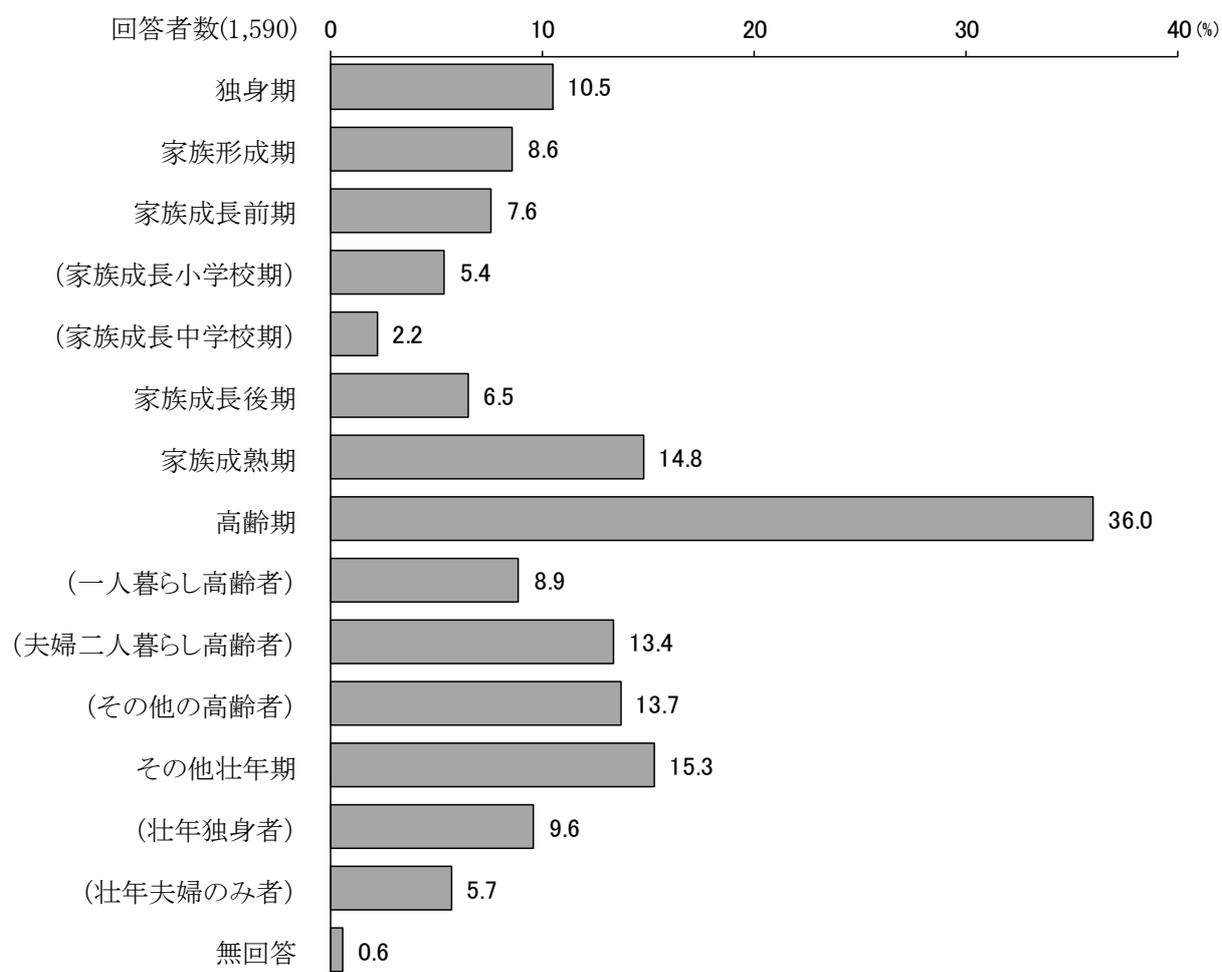
F6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



F7 同居家族（複数回答）



## F8 ライフステージ



F9 エリアデザイン

